



千代田区立いずみこども園

園 長 穴原 江美 所在地 〒101-0024 千代田区神田和泉町1番地
 副園長 佐藤まゆみ・村田 靖孝 電話 (3866) 9938
 PTA会長 江利川陽介 FAX (5687) 8199
 最寄り駅 JR線 秋葉原 地下鉄日比谷線 秋葉原・都営新宿線 岩本町

I 教育の概要

1 学校・地域の特徴

本園は千代田区の東端に位置し、中央区、台東区に接し、中小の間屋中心の商業地である。近年、IT産業ビルの建築が相次ぎ、その中には居住者向けビルもあり、転居してくる住民がいる。ビジネス中心ながら、地域住民も増え町の様相が変わりつつある。

本園は子どもと保護者の視点に立って、幼稚園と保育園の双方のメリットを取り入れ、0歳から就学前までの継続的な乳幼児育成を行っている。

2 基本理念

- 0歳から就学前までの子どもたち一人ひとりの心身の発達過程やその連続性を考慮して、従来の保育園と幼稚園のよさを生かす保育・教育課程の一貫した方針に基づいて、新しい子どもの育ちの場を創造します。
- 子どもやそれを取り巻く実態をとらえて、保護者・地域社会の方々と保育者が連携して、乳幼児期の生きる力の基礎を培い、心身の健全な発達を図ります。
- 子どもを共に見守り、育てる認識に立って、地域社会の方々と協力して、子育ての悩みや不安をもつ家庭を支援する社会的な使命を果たします。

3 教育目標

心身ともに健康でたくましく、主体的に遊びや生活をつくり出す力と豊かな感性をもち、自分を大切にし、人も大切に育てる子どもの育成を目指し、次の教育目標を設定する。

(1) 教育目標

- 元気な 子ども (体)
 <安定した気持ちで、意欲的に体を動かし、遊びや生活に取り組む 子ども>
- やさしい 子ども (徳)
 <人に親しみ、共に遊びや生活を楽しむ 子ども>
- ◎ 考える 子ども (知)
 <物事に興味や関心をもち、考えて行動する 子ども>

(2) 教育目標を達成するための基本方針

- ◎身近な環境に主体的に関わり、遊びや生活を創り出す中で、充実感や満足感を十分に味わえるようにする。(健康な心と体、自立心)
- ◎身近な動植物に触れたり、世話をしたりする経験を通して、親しみの気持ちや興味・関心を高める。また、具体的な関わりを通して、SDGsの理念に基づいた命の尊さや人としての尊厳、身近な環境を守ることの大切さを感じられるようにする。(自然との関わり、生命尊重)
- ◎身近な環境に興味・関心をもって関わる中で、自分で考えたり試したりする楽しさを味わうとともに、発見したり、特徴に気付いたりするなど、知的好奇心の芽生えを育む。(思考力の芽生え、数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚、自然との関わり)
- ◎自国や世界の様々な文化やスポーツへの関心や親しみをもち、多様性を尊重する心を育む。(豊かな感性と表現力、社会生活との関わり、言葉による伝え合い)
- 園生活のリズムを整え、身の回りのことを自分で行う喜びを感じることで、生活習慣の自立を図る。(健康な心と体、社会生活との関わり、自立心)
- 保育者との信頼関係を基盤に園生活の安定を図った上で、成功感や達成感を味わう経験を積み重ね、何事にも意欲的に取り組む姿勢や、心身の健康、体力向上を図る。(健康な心と体、自立心)
- 一人一人の子どもが自分の思いを伸び伸びと表し、相手に受け入れられるうれしさや、人の役に立つ喜びを味わうことで自己肯定感を育む。(自立心、豊かな感性と表現力、社会生活との関わり)

- 一人一人の子どもが自分のよさを感じ取っていくとともに、他者の様々な思いや考えに気付き、時には自分の気持ちを調整しながら、互いを尊重し協働する対話的な子どもを育む。
(協同性、道徳性・規範意識の芽生え、社会生活との関わり)
- 挨拶を交わす心地よさ、言葉のやりとりをする楽しさを感じる中で、コミュニケーションの基礎となる力を育む。
(言葉による伝え合い、社会生活との関わり)
- 全職員（乳児部保育担当者、幼児部短時間保育担当者、長時間保育担当者、預かり保育担当者、早朝・延長保育担当者、看護師、栄養士、用務など）が連携し、互いのよさや専門性を発揮しながら、子どもの発達の道筋や個性を考慮した働きかけを工夫する。
- 併設小学校や近隣保育園と連携し、就学前の保育・教育と小学校教育との円滑な接続を図るために、学校の授業参観、行事や交流活動などを行う。意見交換をする機会には「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用し、互いの保育・教育への理解を深め、連携の充実を図る。
- 0歳児から5歳児までの一人一人の発達や特性に応じた保育・教育を常に模索し続けるとともに、センター的機能を活用するなど諸機関と連携し就学前教育の充実及び小学校への円滑な接続を図る。
- 地域に愛され魅力ある園づくりを行うために、地域や関係諸機関との連携を深め、共有するとともに、保護者アンケート、自己評価、学校関係者評価を活用し、組織的、計画的に保育・教育活動の質の向上を図るための「カリキュラム・マネジメント」を確立する。

4 指導の重点

年齢に応じた指導を充実させるための指導の重点

- <0歳児>・家庭的で温かい雰囲気の中、保育者の愛情豊かな関わりにより情緒が安定し、身近な環境への興味や関心が芽生え、全身、表情、声で表現したり関わろうとしたりする。
- <1歳児>・安心できる保育者との関係の中で探索活動を十分に楽しみ、身近な物や自然に興味や関心をもつ。
- <2歳児>・保育者との安定した関わりの中で、身の回りのことを自分でしようとし、保育者に受け止められながら、思いや要求を行動や言葉などで表現しようとする。
- <3歳児>・基本的な生活習慣を身に付け、安心して園生活を送る中で、一人一人が自分の思いを表現しながら遊ぶ楽しさを味わう。
- <4歳児>・友達と様々な遊びや活動に取り組む中で、自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりしながら、友達との関わりを楽しむ。
- <5歳児>・自分の目的や、共通の課題に向けて取り組み、自分の力を発揮した満足感を味わう。
・遊びや生活を進める中で、互いのよさに気付き、認めたり受け入れたりする。

(1) 養護

- ◎子どもたちが安心して自己発揮し、自己肯定感を育めるよう、保育者との信頼関係を深める。そのため、子どもたちの声にしっかりと耳を傾け、思いに心を寄せ、共感する。
- 子どもの健康に関しては、園医や保健所との連携を図るとともに、看護師の専門性を活かして感染予防に努める。
- 子どもと保護者の情緒の安定を図る中で、個々の子どもの実態やそれぞれの家庭の状況に応じながら、集団としての意識や行動を育むよう、巡回アドバイザー、スクールカウンセラー、療育機関等との連携を図る。
- 子どもが生理的欲求を満たし安定して過ごせるよう、発達や保育時間などに応じた生活リズムを工夫する。そのため、活動と休息のバランスを取ることや、活動内容と方法を考慮することに努める。
- 身の回りの生活習慣（食事・排泄・衣服などの着脱・睡眠・身の回りの清潔を保つなど）の習得は、一人一人の子どもの状況を職員間で丁寧に引き継ぎ、その子に応じた援助をすることで、子どもが自分で行う喜びを味わえるようにする。そのことで、意欲や自信をもって行い、望ましい習慣として身に付くようにする。
- 長時間保育や預かり保育など、園で長時間過ごす子どもが、安心して遊びや生活をし、情緒の安定を図れるよう、早朝、延長、短時間保育担当者、預かり保育担当者間や、保護者との連携を密にする。また、一人一人のペースでゆったりと過ごす時間や場、発達や時期、生活時間帯に応じた遊具を配置する。さらに、異年齢の交流を大切にしながら伝承遊びを取り入れたり、地域の遊び場を活用したりして生活を豊かにする。

○子どもが安心して身近な環境に働きかけられるよう、安全で衛生的な環境づくりを行う。また、子どもが身の回りをきれいにする心地よさを感じて進んで片付けたり、整理整頓をしたりする姿が育つように保育者がモデルとなる。

(2) 指導

◎子どもが主体的に生活や遊びを進めていくために興味・関心や発想を引き出し、したいことやめあてに向け、十分に自己を発揮して取り組み、充実感を味わえるようにする。また、自分で考えたり試したり発想を広げたりする楽しさを味わえるよう、結果や正解を求めず保育者が共感的に受け止めていく。

(健康、環境、表現)

◎個々の子どもが伸び伸びと自分の思いや動きを表し、子ども同士で認め合い多様な考えがあることに気付くように、保育者が一人一人の子どものよさや得意なことを意識的に言葉に表して認めたり、遊びや生活の中に取り入れたりする。

(人間関係、言葉)

◎発達や時期に応じて友達と一緒にいること、学級のみなど行うことの楽しさやよさを感じられるよう、協働して取り組む遊びや活動を取り入れる。

(人間関係、言葉)

◎自分の命、周りの人々の命がかけがえのないものであることを発達に応じて感じ、意識できるようにするとともに、自分も人も大切にしたい気持ちや態度を日常的な関わりの中から育むようにする。

(健康、人間関係)

◎毎月の環境教育推進日に園オリジナルのヒーロー『ピカレンジャー・エコレンジャー・アースレンジャー』の体操やクイズに取り組むこと、日常的に給食の残量を子どもと調べたりゴミの分別や再利用をしたりすることを通して、子どもたちが環境教育に関心を持ち、自分たちでできることを行おうという意識を育むようにする。

(環境)

◎言葉への感覚や表現力を豊かにするために、ICT機器も含めた様々な視聴覚教材を活用した指導を工夫する。

(環境、言葉、表現)

◎地域を愛する子ども、国際社会を生き抜く子どもとして育つよう、特色ある教育活動で地域の伝統文化や伝統行事に親しむ機会をつくったり、多様な文化に触れる環境を設定したりする。

(環境、言葉、表現)

○学校 2020 レガシーに基づき、発達や実態に応じて進んで体を動かして遊び、身体諸機能の発達を促すために、「幼児期運動指針」に沿って、外遊びの時間を日常的につくる。

(健康)

○コーディネーショントレーニングを意図的・計画的に取り入れ、様々な動きの運動遊びを経験しながら体を動かすことを楽しむようにする。

(健康)

○学校 2020 レガシーの取組として、講師を招聘した遊びや活動(伝統芸能やパラスポーツ)、大使館との交流などを計画し、豊かな体験ができるようにする。また、園での取り組みを伝えることで保護者の関心も高めていく。

(健康、人間関係、環境)

○食への関心を高め、健康な体づくりができるように発達に応じた食に関する指導や配慮(食事の準備や片付けの仕方、食事のマナー、食事環境など)について園全体で検討し共有する。

(健康)

○いろいろな食材や自分の健康に関心を持ち、進んで食べるようになるために、野菜を自分たちで育て親しみを感じられるようにする。また、栄養士からの計画的な食育指導を通じて、食材や調理への関心を高めたり、食材のもつ栄養が健康な体づくりに関係することを知ったりして食への望ましい態度や習慣につなげる。

(健康、環境)

○様々な人と関わる楽しさを味わったり、周囲の人たちとの関わりの中で支え合いながら生きていることを感じたりするために、保育者が人との関わり方のモデルを示し、思いやり、憧れ、親しみ、感謝などの多様な思いを経験できるようにする。

(人間関係、言葉、表現)

○互いに気持ちよく生活するために必要なルールやマナーを守ろうとする気持ちを育むため、必要性を理解できる指導の工夫や、他者の立場に立って考えられるような働きかけを行う。

(人間関係、言葉)

○自然に親しみ環境を大切にしようとする気持ちを育むために、多様な直接体験を通し、自然の美しさや不思議さを感じられるようにするとともに、日常の中で物や自然を慈しむようにする。

(環境、表現)

○0歳児から5歳児までが共に生活する本園の特色の中でそれぞれの発達に即した豊かな経験を保障するために、「育成過程」や「指導計画」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に基づいた保育・教育を展開するとともに、職員間の学び合いを通して子ども理解や指導方法・経験内容などを共有し、保育の質の向上を図る。

- 2歳児から3歳児への環境の変化への戸惑いや不安を和らげ、滑らかな保育の接続を図るため、2歳児末と3歳児当初の保育環境や保育内容の見直しを行う。

(3) 環境の構成について

- ◎ 身近な環境に主体的に関わる楽しさを感じられるよう、子どもの発達や興味・関心、思いに合う玩具や遊具、教材などを準備するとともに、それらにじっくり関わる時間を保障する。
- ◎ 自己肯定感を高めるために、成功感や達成感を感じられる遊びや活動を工夫するとともに、その子らしい表現を認めていく。
- ◎ 自分や周りの人の命や尊厳を守ることの大切さに気付けるよう、他者を軽視するような言動は見逃さずに指導するとともに、特に水着で隠れるところは自分だけの大切なところであることなど、具体的で分かりやすい表現を用いた指導を工夫していく。
- ◎ 自然物や自然事象、様々な性質のものに直接関わり操作する中で、発見したり思いや考えを巡らしたりして知的好奇心を育む。そのために、時期や行事によって環境を変化させる必要がある園庭において、移動可能で、かつ作成や管理が簡易な植物の栽培、虫を呼び込む環境を職員間で協議・協力しながら用意する。直接体験を促したり補ったりする ICT を活用するとともに、子どもがじっくり関わる時間を保障する。
- ◎ 全身の様々な感覚を使いながら、子どもたちが面白さや不思議さを感じ、じっくり関わったり試したりしたくなる感触、匂い、形、色等が異なる物や自然物を意図的に環境に用意する。
- ◎ 身近な環境を大切にすることを育むために、SDGs の理念に基づいた活動を計画的に実施する。区の一斉清掃の日に合わせて親子での清掃活動、廃材を生かした制作、紙素材等のリサイクル活動、栽培活動、自然の物に触れる遊び、保育室の整理整頓、節電や節水の取組など様々な側面からの環境教育を推進する。
- 職員が子どもの興味・関心、発想、表現などを引き出す遊びや活動を意図的・計画的に取り入れられるよう、職員間で学び合いの機会を設定し、園全体で魅力的な保育環境を目指す。
- 様々な体の動きや挑戦しようとする意欲を引き出し、達成感を味わえるよう、安心して取り組んだり、めあてに向けて繰り返し取り組んだりする環境を用意する。
- 自分たちが友達や保育者、園のみんなの役に立つ喜びを味わえるよう、年齢や発達に応じた手伝いや役割をつくる。
- 挨拶をする気持ちよさを味わい、進んで挨拶をしようとするよう、職員が子どもや保護者に積極的に挨拶をするとともに、一人一人の子どもの挨拶につながる表情・しぐさ・表現を保育者が見逃さずに受け止めて反応していく。5歳児が毎朝の登園時に当番活動として行っている『あいさつ隊』の取組を通して、家庭にも挨拶の心地よさや大切さが伝わるようにする。
- 年上の子どもに憧れを抱いたり、年下の子どもと接する中で自分を振り返り成長を感じたりする経験をするなど、日常的に園内の様々な場で異年齢の子どもたちが接したり関わったりする環境や活動の内容を見直し、充実を図る。
- 豊かな心情や想像力、他者の思いに気付く力、豊かな語彙を育むために、子どもが見立てたりつもりになったり、登場人物の心情を感じたりする遊びや活動・教材を取り入れるとともに、図書館司書と連携した絵本環境の充実を図る。
- 隣接する和泉公園の四季の変化や、地域への散歩や遠足で出会う自然との関わりを取り入れていく。気軽に戸外に出ることが難しい年齢については保育室テラスを活用し、土・水・植物などの環境を作る。
- 地域の文化や伝統に触れる機会を通して、日本や地域への愛着や誇りを抱けるようにする。また、外国人講師との触れ合いを通して、日本以外の国の人や文化への関心や理解を広げていく。
- 2歳児から3歳児への滑らかな接続については園全体の課題とし、より幅広く意見を出し合えるよう、教育課程・育成課程推進委員会及び職員会議などで計画的に検討していく。
- 子どもの視点で、「人的」「物的」「生活の仕方や流れ」などのポイントから環境の変化を捉え、2歳児から3歳児への進級による環境の変化を緩やかにするための方策とそれを実施する時期や期間等を検討する。そのために、全職員が2・3歳児の保育を見る機会を計画的に設ける。

(4) その他

- 子どもたちが安全な行動の仕方を知り、自分の身を守れるよう、併設の小学校や児童館、地域の警察や消防署などと連携して安全指導や避難訓練を行う。職員の危機管理と対応力の向上を図るため、毎月の安全点検や多様な想定をした訓練を行う。また、安全マニュアルの見直しや検討を行う。

- 全職員が子どもを理解し、個々に応じた支援を行えるよう、巡回アドバイザーやスクールカウンセラーと具体的な支援方法を検討する。また、園内委員会において近況を報告し合ったり、支援に直接関わる職員の連絡会を実施したりして、園内で情報と指導方針の共有化を図る。
- 保護者に園の保育・教育の重点や内容を知ってもらい家庭教育につながるよう、ICT 機器を活用し、保護者が受け止めやすい発信方法を工夫していく。また、保護者が作ったものを行事や活動に活用し、子どもたちの興味・関心が高まる姿や活動を楽しむ姿を伝える機会を作る。
- 保護者が安心して子育てをしたり、地域社会に対する子育て支援の機能を果たしたりしていくため、預かり保育・長時間保育、近隣の連携園を行事に招くなどをして、地域に開かれた子育て支援を実施する。子育て支援事業の‘ひだまり広場’では未就園児保護者の願いに応えるために、保育者や看護師が相談のったり、情報提供をしたりして、こども園の保育力を活かした内容を実施する。
- 自分たちが直接的・間接的にお世話になっている、館内や地域の方々に親しみや、感謝の気持ちをもてるよう、日頃から挨拶をしたり、その方々の活動を知らせたりする。

■研究主題 令和5年度

『自分を大切に 人も大切にする子どもを育てる』

～2歳児から3歳児への滑らかな接続の工夫～

5 一日の時間

年 齢	期 間	保 育 時 間	備 考	
長時間保育	0歳児	4月1日～3月31日 ※日曜・祝日、年末・年始(12/29～1/3)を除く	7:30～18:30の中で、 ※保護者の勤務時間と送迎にかかる時間を加味し、 園長との面接によって決定	19:30まで延長保育・スポット保育あり ※0歳児を除く
	1歳児			
	2歳児			
	3歳児			
	4歳児			
短時間保育	3歳児	4月10日～5月11日	8:45～11:20	<<預かり保育>> 【短時間保育期間中】 ① 7:30～8:45 ② 短時間保育終了時刻～18:30 ※①・②の時間帯で各家庭の事情により実施 ※3歳児は5月開始 【長期休業中・振替休業日等】 7:30～18:30
		5月12日～10月23日	8:45～13:00	
		10月24日～3月19日	8:45～13:30	
	4歳児	4月7日～7月20日	8:45～13:30	
		9月1日～3月19日	8:45～13:40	
	5歳児	4月7日～3月18日	8:45～13:50	

6 年間行事計画

※感染症等の拡大状況により中止や変更あり

毎月実施—避難訓練、安全指導、身長・体重測定（幼は身長測定を学期に一度実施）、誕生会
 学校図書館司書来園、環境教育推進日（ピカレツジャーデー）、未就園児施設開放「ひだまり広場」、
 食育指導
 その他、神田雷神太鼓、国際教育「英語に親しむ」、和泉小学校との交流等を実施

4月	始業式（4・5） 入園式 給食始（4・5短時間保育） 定期健康診断始 保護者会	5月	こどもの日の集い 離任式 給食始（3短時間保育） 保護者会（1） 親子遠足（3） 遠足（4・5） 個人面談始（3・4・5） 土づくり（5） 清掃事務所の方の話を聞く（2・3・4・5） コーディネーショントレーニング（4・5）
6月	よい歯の表彰式（3・4・5） 保護者会（0） 一斉清掃 屋内プール指導始（4・5） 自然体験活動（3・4・5） 遠足（4・5） 屋外水遊び指導始 生け花体験（5親子） コーディネーショントレーニング（4・5） スポーツに親しむ（5） 定期健康診断終	7月	親子触れ合い 七夕の集い 保護者会（2） 親子造形活動（4親子） 土づくり（3・4） 自然体験活動（3・4・5） コーディネーショントレーニング（4・5） 個人面談終（3・4・5） 終業式（3・4・5） 夏季休業日始（3・4・5）
8月	夏季休業日終（3・4・5）	9月	始業式（3・4・5）、屋外・屋内水遊び指導終 縁日ごっこ 大使館との交流（5） お月見の集い 敬老の日の手紙（3・4・5） 遠足（3）（4・5） 教育委員訪問
10月	保育参観・個人面談始（0・1・2） 遠足（3） 秋季内科健診（0・1・2） 土づくり（4） 秋季歯科健診（3・4・5） 個人面談始（5） いずみふれi（あい）スポーツ（3・4・5） 園公開 保育参加（2） 観劇会 自然体験活動（3・4・5） パネルシアター鑑賞（3・4・5）	11月	園公開 一斉清掃 合同こども会（5） 遠足（3・4・5） 園外保育（2） 就園時健康診断（令和6年度入園予定児）
12月	個人面談終（5）いずみポケットシアター（4・5） もちつき お楽しみ会 終業式（3・4・5） 冬季休業日始（3・4・5）	1月	冬季休業日終（3・4・5） 始業式（3・4・5） 神田囃子・獅子舞鑑賞 親子触れ合い 鏡開き 遠足（3・4） お祝い遠足（5親子） 土づくり（3） 自然体験活動（3・4・5） 個人面談始（3・4） 保育参観・個人面談終（0・1・2） 連合作品展 保護者会全体会
2月	節分の集い 開園記念の集い・お祝いコンサート 開園記念日 遠足（3・4・5） 保育参観（3） 新入園児保護者会・体験入園（令和6年度入園） 自然体験活動（3・4・5） 保護者会（0・1・2・3・4） 親子触れ合い	3月	保護者会（5） ひなまつりの集い 個人面談終（3・4） 土づくり（4） お別れ会（3・4・5） 園外保育（2） 修了式 終業式（3・4・5） 春季休業日始（3・4・5）

II 現況

1 施設・規模一覧

現園舎	起工 昭和 60 年 6 月 25 日	保育室	(5)	59.5 m ²
	竣工 昭和 62 年 7 月 31 日		午睡室	(1)
園舎構造	鉄骨コンクリート 8 階建て	遊戯室	(1)	108.0 m ²
遊び場	屋外 (218 m ²)	職員室	(1)	58.0 m ²
		多目的室	(1)	68.0 m ²

2 組編成

() は長時間保育児の在籍数 5 月 1 日現在

組 男女別	0 歳児	1 歳児	2 歳児	乳児部 合計	3 歳児	4 歳児	5 歳児	幼児部 合計	総合計
	ひよこ	あひる	つばめ		もも	ばら	ゆり		
男	4 (4)	5 (5)	7 (7)	16 (16)	12 (8)	11 (6)	17 (10)	40 (24)	56 (40)
女	5 (5)	7 (7)	8 (8)	20 (20)	16 (10)	18 (12)	15 (8)	49 (30)	69 (50)
計	9 (9)	12 (12)	15 (15)	36 (36)	28 (18)	29 (18)	32 (18)	89 (54)	125 (90)

3 沿革の概要

昭 7. 4. 1 東京都東京市今川尋常小学校に東京市今川幼稚園の設置を認可され開園	昭 9. 4. 1 東京市佐久間尋常小学校内に佐久間幼稚園認可設置
昭 18. 7. 1 都制実施により園名を東京都今川幼稚園と改称	
昭 19. 4. 20 東京都長官より長期休園の命下る	昭 19. 5. 3 戦時下非常措置により閉園
昭 19. 4. 28 休園式挙行	
昭 25. 4. 1 所在地に再開 東京都千代田区立今川幼稚園と改称	
昭 25. 9. 7 開園式挙行	
昭 31. 2. 23 昭和 30 年度東京都教育庁指導部研究指定園として絵画製作教育についての研究発表を行う	昭 26. 4. 1 東京都千代田区立佐久間幼稚園として再開園 3 歳児保育開始
昭 37.10.27 創立 30 周年記念式典挙行 園歌制定	昭 33. 1. 1 創立 25 周年記念式典挙行 昭 35. 6. 1 完全給食実施
	昭 39.11. 9 創立 30 周年記念式典挙行
	昭 40. 2. 26 区研究協力園として「考える芽を育てるために」の研究発表
	昭 42. 2. 17 小学校研究発表に際し公開保育
	昭 43. 4. 1 学級増にともない 2 階教室改修
	昭 43. 6. 25 公開保育

- | | | | |
|------------|--|------------|--|
| 昭 47.10.23 | 創立 40 周年記念式典挙行
園旗制定 | 昭 44.11.18 | 小学校研究発表にともない公開保育 |
| 昭 50.11.7 | 公開保育を行う
幼児の年齢や発達に適した教材研究
ー音楽リズムを通してー | 昭 47.11.30 | 公開保育 |
| 昭 56.10.29 | 公開保育を行う
いきいきとした子どもを育てるための指導
法の工夫
ーごっこあそびを通してー | 昭 49.11.9 | 創立 40 周年記念式典挙行 |
| 昭 57.10.22 | 創立 50 周年記念式典挙行、屋上遊技劇場設置 | 昭 53.11.14 | 区内に公開保育 |
| | | 昭 54.2.6 | 全国・都交通安全委託研究発表
長時間保育についての実践研究 |
| | | 昭 59.11.8 | 開園 50 周年記念式典園歌制定挙行 |
| | | 昭 60.3. | 園舎新築のために淡路小学校内に移転 |
| | | 昭 60.12.13 | 区教育委員会研究協力園研究発表
「二園での交流を生かした指導」
「三年保育教育課程」資料作成 |
| 昭 61.10.29 | 公開保育を行う
ー幼児の道徳性の芽生えを
育てる保育を見つめてー | 昭 62.7. | 新園舎落成につき移転 |
| | | 昭 62.8.28 | 新園舎落成記念 |
| | | 昭 63.4.1 | 長時間保育児を受入れる |
| 平 4.10.17 | 創立 60 周年記念式典挙行 | 平 2.7.5 | 公開保育 |
| 平 5.4.1 | 学校設置条例の改正に伴い、千代田区立和泉幼稚園となる | | |
| 平 6.3.11 | 園章・園旗・園歌制定 開園記念日を 11 月 14 日制定 | | |
| 平 6.4.1 | 専任園長就任 | | |
| 平 7.2.1 | 区教育委員会研究協力園研究発表「主体的に遊ぶ幼児の育成をめざして」 | | |
| 平 8.6.18 | 千代田区保育研究会 | | |
| 平 14.4.1 | 千代田区立こども園条例の制定に伴い、幼稚園・保育園を包含する新たな乳幼児育成施設として
千代田区立いずみこども園となる | | |
| 平 15.2.17 | 園章・園旗・園歌制定 開園記念日を 2 月 17 日制定 | | |
| 平 16.1.30 | 区教育委員会研究協力園研究発表「遊びをつくり出すいずみの子どもーモノと場の構成の工夫ー」 | | |
| 平 16.11.24 | 千代田区保育研究会 | | |
| 平 20.10.29 | 保幼小合同研修会 | | |
| 平 23.11.2 | 区教育委員会研究協力園研究発表
「子どもの健やかな成長を考える」ー自分が好き・みんなが好き・こども園が好きー | | |
| 平 24.4~3 | 開園 10 周年記念行事等 | | |
| 平 24.11. | 保幼小合同研修会 | | |
| 平 28.11.9 | 保幼小合同研修会
区教育委員会研究協力園研究発表会 | | |
| 令 2.2.14 | 「自分を大切に 人も大切にできる 子供を育てる
ーわくわく遊んで キラキラ輝く☆いずみっこー」 | | |
| 令 3.6.23 | 保幼小合同研修会 | | |
| 令 4.11.4 | 開園 20 周年を祝う会
~20 年の歴史と共に すすめ つなげ いずみっこ~ | | |